

国際政治

157

冷戦の終焉とヨーロッパ

日本国際政治学会編

| | |
|---|--------|
| 序章 冷戦の終焉とヨーロッパ | 広瀬 佳一 |
| ソ連による弱さの自覚と対外政策の転換 | 岡田 美保 |
| 緊張緩和（デタント）とヨーロッパ | 金子 讓 |
| 一九七〇年代及び一九八〇年代における フランスの「抑止、防衛、デタント」政策 | 山本 真智子 |
| バールの構想と分断克服への道 | 妹尾 哲志 |
| 東ドイツ体制批判運動再考 | 井関 正久 |
| ヨーロッパ連合構想と「新しいヤルタ」 | 川嶋 周一 |
| 冷戦の終焉とオーストリアの中立 | 上原 史子 |
| 欧州冷戦終焉とスペインの外交政策の変遷 | 細田 晴子 |
| C S C E を通じた人権問題の争点化 | 宮脇 昇 |
| 英国 C S C E 政策とヨーロッパ・デタント | 齋藤 嘉臣 |
| <hr/> | |
| 欧州技術協力とイギリスの対ヨーロッパ政策 | 芝崎 祐典 |
| <hr/> | |
| < 書評論文 > | |
| 勢力均衡論再考 | 今野 茂充 |
| <hr/> | |
| < 書評 > | |
| 木畑洋一著 『イギリス帝国と帝国主義』 | 前川 一郎 |
| 遠藤乾編 『ヨーロッパ統合史』 | 坂井 一成 |
| 大平剛著 『国連開発援助の変容と国際政治』 | 大隈 宏 |

2009年9月刊